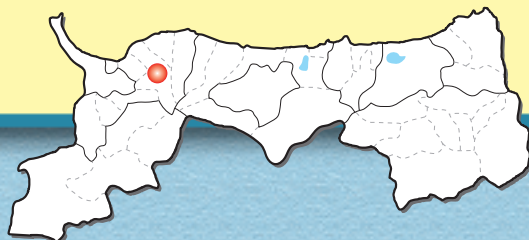


あか まつ いけ
赤松池

さいはくんだいせん
(鳥取県西伯郡大山町)





👉 ボート遊びをする子どもたち

へびが住む神の池

赤松池は、大山町赤松から大山に行く道を少し入った鍋山の谷間にあります。いまだかつて完全に干上がったことがないといわれるぐらい、水の量が豊富です。ここにため池をつくったのは江戸時代1680年頃といわれ、その後昭和の時代に堤防を高くする工事が行われ、堤防の高さを5.5メートル、その長さを130メートルにしました。その結果、貯水量は40万立方メートル、この池の水でうるおう水田の面積は32ヘクタールとなりました。

この池は、もともと自然に発生したくぼ地の水たまりを利用して堤防を築いたもので、底樋より下の水深は最も深いところで30メートル以上あるといわれ、昔からへびが住む神の池とおそれられていたということです。

(注) 6ページを参照

赤松池の伝説

赤松池は、その昔広い原野でした。現在の赤松池にある2つの半島の中央あたりに、1本の松の大木がありました。不思議なことにこの松の大木は中ほどから二またに分かれ、片方は黒松に、もう片方は赤松になっていました。その松の根元に祠があり、雨ごいの神様弁財天がまつってありました。村人は水田の水が不足すると、この祠の前でたき火をして雨ごいをしたといひます。ところがある年、暴風雨によって祠が倒れてしまい、倒れた祠のあとから水が湧き出して、一夜のうちに今のような周囲4キロメートルにもおよぶ大きな池になったと伝えられています。

また、この池には、次のような言い伝え（伝説）もあります。

むかし、松江藩主松平候に仕える松浦頼母という家老がいました。その家老には子どもがなく、日頃から子どもがほしいと願っていました。そこで、靈験あ



↑ 上空から見た赤松池とその周辺



あかまつ だいみょうじん ほくら
赤松池大明神の祠

らたかな赤松池大明神にお参りしたところ、女の子が産まれお初と名づけました。お初は評判の美しい娘になりましたが、松平候の目にとまり妻にほしいと要望されました。藩主の願いはことわれない

ので、両親はお初をお城にあげることにしました。これを知ったお初は悲しみました。が、「お城に召す前に、私が生まれるように祈っていた、赤松池大明神へお参りさせてください」と願いました。

赤松池参りの日は朝から晴れわたり、池は青々とした清らかな水を満面にたたえていました。池のほとりで乳母が「お嬢様、この池の水を髪につければ美しい髪になりますよ」といいました。いわれるままにお初が池の水で髪をすいたところ、ひとくすすくごとにだんだんと髪が長くなり、みるみる水面をはうほどになりました。やがてお初は岸を離れてするすると水面を歩き出し、とうとう池の中心まで行きつきました。すると、とつぜん大渦巻きがおこり、お初は水中に沈んでしまいました。驚いたお侍や乳母は「お初様、もう一度その姿を見せ

てください。そうでないと、帰ってお殿様^{とのさま}にもうす言葉がありません」と祈ったところ、再び大渦巻き^{ふたた}がおこり腰から下^{こし}をへビに変えたお初^かが水中から現^{あらわ}れました。そして「私は、この池にすむ大蛇^{だいじゃ}です。頼母^{たのも}があまりにも強く願^{ねが}うので、しばらくの間お初に姿を変え、人の世に身をおいていましたが、今もとの姿に帰るときがきました。長い間育てていただきありがとうございますございました。これから先、私に祈^{いの}りをささげる人には、必ず幸福^{かなら}を与えましょう」といい残^あし、水中深く沈^{しず}み二度と姿を現^{あらわ}しませんでした。

それより後、松江市北堀町^{まつえ しきたほり}にある松浦家^{まつうら}では、お初がへビにもどった旧暦6月18日^{きゅうれき}には、大広間に8枚の屏風^{まい びょうぶ}を立て、たらいに水を入れておくと、お初が訪^{おとず}れたしるしとしてたらいの中に多くの砂^{すな}が沈んでい



↑ 赤松池の前にある伝説の説明

たといいます。

赤松池にある祠にはご神体としてお初の
像がまつられており、赤松神社では同じ日
に例祭が行われています。お初は今でも龍
神として信仰を集め、幸福を願う人や雨ご
いを祈願する人々が遠方からお参りします。

赤松池の堤防増築

水のかれることのない赤松池ですが、下
流の水田の面積が増えたことと、堤防から
漏れ出す水の量が増えるにしたがい、池神
様に工事の安全を祈って堤防を改修しよう
ということになりました。

1943（昭和18）年に行われた工事は、
堤防を高くする工事で大部分は赤土の
作業がほとんどでした。幸いに工事現場の
東側に、赤土がたくさん取れる鍋山の一部

があったため、トロッコ
で運搬して昔ながらのた
たき石で突き固めました。
そのため多くの人の力
を必要とし、近くの町や
村から大勢の人が工事に
たずさわりました。毎日、

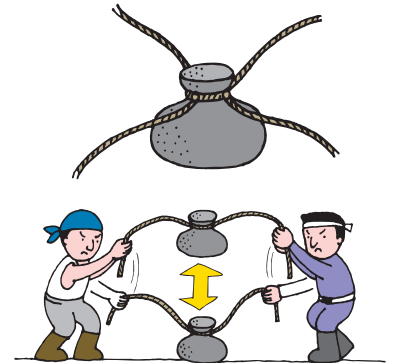


↑ 平成の改修前の赤松池

トロッコのきしむ音や土を突き固めるときに歌う歌、そして地面をたたくものすごい地響きの音が入り交じって、その音は池の水面をゆすったと伝えられています。

それからおよそ50年がすぎ、赤松池は水漏れがひどくなったため再び改修され、赤松の地を見守っています。

(注) たたき石
土をしめかためるためにつかわれる石のことをいいます。石にロープをまいて、数人で石を上下させて土をしめかためます。大変な重労働だったということです。



↑ 新しくなった水の取り出し口(斜樋)



↑ 稲刈りがはじまった水田